ＳＤＧｓ未来都市おおむた　夢を描くまちづくり



民主・護憲クラブ
櫻井ちはる　議員

令和８年熊本地震を受けての本市の課題

問 今回の熊本地震で新たに認識した、防災対策の課題は。

答 猛暑中の災害となり、被災者及び支援者の熱中症等の健康リスクへの対策に加え、電気、水道等のインフラの早期復旧が生活再建の第一歩であると改めて認識した。

問 令和８年５月改定の地域防災計画には、帰宅困難者について明確な記載がないことから、帰宅困難者対策を位置づける必要があると考えるが。

答 大規模災害発生時には多数の帰宅困難者が発生する可能性があるため、計画に位置づけることを今後検討する。

庁舎整備の市民説明会は19小学校区での開催を

問 庁舎整備基本計画案の市民説明会の開催回数等は。

答 市長の出席のもと、地区公民館エリアを基本に市内各地域で開催したい。

再発言 基本計画の策定には、市民意見の反映とその機会の提供、行政の説明責任を果たすことが重要である。会派として19小学校区全てにおける開催を強く要望する。

問 庁舎整備の概算事業費155億円のうち、約74億円は交付税措置のない地方債を財源としている。最終的に市民の税金から返済する負債となるが、財政計画は成り立つのか。

答 国に庁舎建設に係る地方債への交付税措置の拡大を求め、財政負担の軽減を図る。

再発言 基本計画は、市民の声を反映させる極めて重要な機会と考える。市民意見を丁寧に聞き、庁舎の規模、事業費、将来の財政負担を改めて精査するよう強く要望する。

福岡県政をめぐる一連の問題

問 県や県議会での県民の信頼が揺らぐ事態が続いている状況について、市長の考えは。

答 地方自治の信頼に関わる重大な事態と重く受け止めている。速やかに事実関係を究明し、説明責任を十分に果たすとともに、政治倫理の確立を図り、一刻も早い県政への信頼回復に努めてほしい。

ラストワンマイルの確保及び子供への交通系ＩＣカードの配付を

問 本市の令和７年度の路線バス利用者は前年度から約３万人減少した。地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正を踏まえ、地域に存在する輸送資源を公共交通の接続手段に活用できないか。

答 関係者と適切な手法の協議を行うとともに、地域公共交通活性化協議会に諮りながら、今後の検討を進めたい。

問 将来の利用者を育てる観点から、子供へのＩＣカードの配付を検討できないか。

答 イベントの開催など、子供が楽しみながら公共交通に触れる機会を創出することで、将来の利用促進につなげたい。

再発言 子供が自分のＩＣカードを持ち公共交通に親しみ、利用するきっかけをつくる取組として検討してもらいたい。

市制施行110周年記念事業と、誕生10周年を迎えるジャー坊の今後について

問 市制110周年の記念式典に対する市長の思いは。

答 次の時代につなぐ契機としたい。本市への愛着や誇りを感じられる内容とし、本市の魅力を市内外に発信する機会としたい。

問 10年間育ててきたジャー坊を、今後どのような存在にするのか。また、世界ご当地キャラグランプリへの参加は。

答 福岡都市圏でのＰＲイベントへの参加や、ＳＮＳでの情報発信に積極的に取り組み、大牟田のイメージや知名度の向上を図りながら子供たちを笑顔にし、大牟田を元気にする取組を進める。また、知名度をより広げるため、効果の上がる場に参加していきたい。



大牟田市「ジャー坊」